



特集

これからも 住みやすいまち 住み続けたいまち



平成26年12月に実施した恵庭市市民意識調査において、回答者の95%が「恵庭市は住みやすい」と評価しました。これから「住みやすいまち」「住み続けたいまち」であるために、平成27年11月に策定した「恵庭市人口ビジョン」「恵庭市総合戦略」を特集します。

今月の特集に関する問合せ先
企画・広報課
(☎ 33-3131 内線 2344)



何となく見えている日常の風景が 気が付くと変化している

毎朝の出勤時、歩きながら周りを見渡せば、たくさんの市民とすれ違っていることに気が付きます。昨日のテレビドラマの話をしている女子大生、部活の先輩に挨拶する高校生、駅まで走る若い女性、コンビニで缶コーヒーを買う会社員、幼稚園バスを待つお母さんと子ども、お孫さんと思われる小さな女の子と手をつないで歩くおじいちゃん、きちんと手を上げて横断歩道を渡る小学生…。

普段何となく見えている風景。きっと、この先も変わることはないだろうと思いつている日常。

でも、本当にそうでしょうか。

このまちは、ここ数年で大きく変化しま



した。恵庭駅前にビルが建ち、恵み野に新たな住宅団地が整備されました。

まちは、今この瞬間もどんな変化しています。そしてきっと、まちはひとりでも変化するのではなく、そこに住む人たちによってつくられ、変化していくものなのでしょう。

…と、何だか他人事のように話を進めましたが、変わらなれないと思っている日常が、気付かないうちに大きく変わっているって、少し不思議なことだと思いませんか。

人口減少は不幸なことなのか まちの発展とは何なのか

今、全国的に人口減少が社会問題となっています。平成26年、日本創生会議が、人口減少により2040年までに消滅する可能性のある896自治体を公表し、地方に

強い衝撃を与えました。以降、「わが町を存続させるために！」と、全国の市町村が必死に人口減少の抑制に取り組んでいます。確かに、人口減少はまちの発展にとって致命的です。若者の市外流出がまちづくりの担い手不足を招き、婚姻件数・出生者数の減少に拍車をかけ、保育所や小・中学校がなくなり、高齢者が取り残されてしまう、という最悪のケースも考えられます。そうなれば、私が見ている出勤時の日常の風景も一変するでしょう。

人口減少を抑え、今の生活水準を維持しようとすることは、どの市町村も考えること。だからこそ、浮き足立つことなく、「私たちが本当に住みたいまち」とはどんなまちなのか、じっくり考える良い機会だと思いませんか？

人口減少は不幸なことなのか。まちの発展とは何なのか。

市は、「私たちが目指すべきことは、まちに住む人たちが生き生きと暮らし、いつまでも幸せに住みやすいまちだと感じることだ」という想いを強く持ち、「恵庭市人口ビジョン」と「恵庭市総合戦略」を策定しました。

現実的なシナリオを描く 「恵庭市人口ビジョン」

恵庭市の人口に関する現状を分析し、今後の人口の推移と将来のまちの方向性を示



■**転入者数の増により維持されてきた人口。今後は若者の雇用の場の確保が重要**

恵庭市の人口がこれまで何とか維持されてきた背景には、宅地開発による転入者数の増加があり、このことが、年々低下していく出生率による人口の減少をカバーしてきました(図2)。

さらに、出生率の低下は若者の定住率の低さが影響していると分析。市内には大学と専門学校が5カ所ありですが、卒業生の市内就職率は3・5%(平成26年)にとどまっています。縁あって恵庭市に集う学生たち。

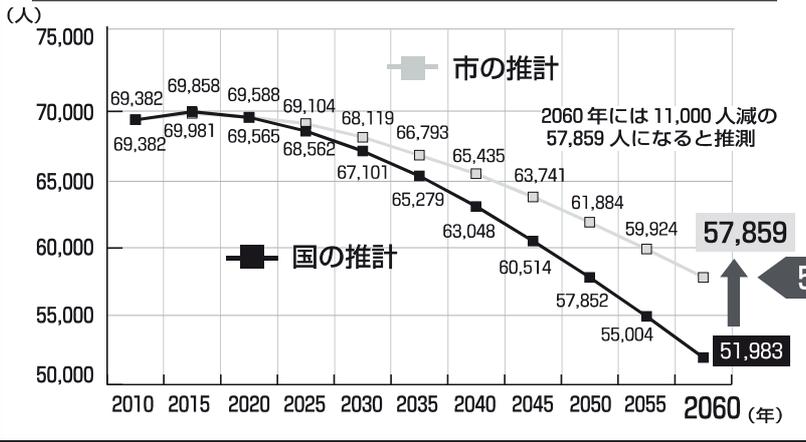
すために策定した「恵庭市人口ビジョン」。

この中で特に重要なのが「本市人口の将来展望(図1)」です。国の推計値と比較・検討しながら、これまでの市の人口の推移と現状の分析結果に基づき、2060年には現在の人口より1万1000人減の5万7859人まで減少すると試算しました。

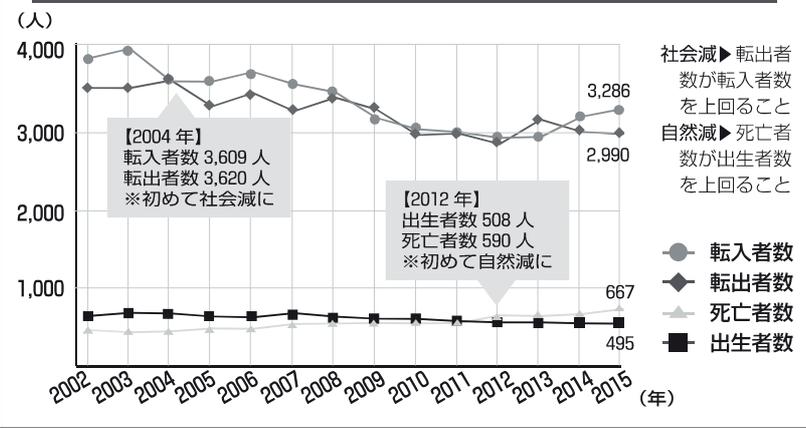
「恵庭市人口ビジョン」の中で示された市の人口の特徴と、その特徴を踏まえたうえで今後目指していくべき方向性について、見ていきましょう。



(図1) 本市人口の将来展望



(図2) 本市の出生者数・死亡者数、転入者・転出者数の推移



今後は、若者の雇用の場の確保や地元での就職の促進などが、活力あるまちづくりの鍵となります。

■**生産年齢人口の減少に伴い、市内の総所得も減少傾向に**

全国的な少子高齢化により、生産年齢人口(※1)は年々減少していますが、特に恵庭市は出産・子育て期である20~30歳代の女性の就業率が低い傾向にあります。これは、市内の総所得に直結する問題。市内

の総所得が減少すれば、市内で循環するお金が減少し、さらには、まちづくりに必要な市の財政の確保も困難となります。高齢者も生き生きと働ける環境を整えと共に、女性が働きやすい環境づくりの支援が、今後さらに重要になってきます。

■**花のまちづくりに恵庭溪谷、観光施設の整備で、交流人口は大きく伸びた**

平成18年に「えこりん村」と道と川の駅「花ロードえにわ」が開業して以来、恵庭市への観光入込客数は前年までの40万人から倍増、現在は年間130万人もの観光客が訪れています。こうした交流人口(※2)の増加は、地元商店街の活性化や雇用機会の創出、まちのPRにつながります。市はまちの活性化には、さらなる交流人口の増加が不可欠と分析しています。

市では、以上の現状を把握したうえで、人口減少という問題から目をそらすことなく、「住みやすいまち」を目指してきます。そのための人口減少社会の到来に特化した計画が「恵庭市総合戦略」。まちづくりの最上位計画である「恵庭市総合計画」と整合性を図りながら、今後、一体的に「住みやすいまち」づくりを進めていきます。

(※1)生産年齢人口▶生産活動に従事している年齢の人口。15歳以上の人口

(※2)交流人口▶その地域に訪れる人口

複雑化する課題。縦割りではなく横断的な取り組みを

ところで、「住みやすいまち」といっても、条件や課題は人によってさまざまです。例えば、「結婚をきっかけに恵庭に移り住みたい。いずれは子どもも欲しいし、マイホームも建てたい。そうなる」と生活費が苦しいので、奥さんにも働きに出てもらわないと」と悩んでいる人の場合、課題は自分の雇用の問題だけでなく、奥さんの働き口、子育て支援や居住の環境など多岐に及びます。

このように、人口減少を想定したまちづくりにおける課題は多様化しています。市も、多様化した課題に対応するためには、もはやそれぞれの業務を担当する部署だけで対応できるものではありません。行政の縦割りの壁を越えて横断的に取り組まなければ、「住みやすいまち」づくりを進めることは困難です。

「恵庭市総合戦略」では、人口減少に即した「住みやすいまち」「住み続けたいまち」を実現するため、4つの基本目標を定めました。それに伴う個別の施策について、**若者世代を中心としたニーズに対応する横断的施策**

● 交流人口増による幅広い地域産業活性化
● 結婚出産から定住まで切れ目のない支援
の3つを事業展開の方向性として、横断的に取り組んでいきます。

将来のまちの方向性を実現するための4つの基本目標

人がつながり
人口減少に負けない魅力あるまちづくり

安全安心に住み続けたく
なるまちづくり

恵庭らしさを活かした魅力ある
まちづくり

希望を持って子育てしたくなる
まちづくり

この4つの基本目標を達成するため、以下の3つの視点を持ちながら市は【具体的な施策・事業】を、横断的に進めていきます



若者世代を中心としたニーズに対応する横断的施策

土地を有効活用した宅地供給、高齢者の住み替えによる既存住宅の活用、若年層のニーズに合わせた賃貸住宅供給の促進などにより、出生率の増や人口の社会増を目指します



交流人口増による幅広い地域産業活性化

恵庭の特色である「花のまち」のイメージ、農産物、自然景観を活用して、さらに交流人口を伸ばし、経済波及効果の拡大、幅広い地域産業の活性化、雇用の増加を目指します



結婚出産から定住まで切れ目のない支援

年代別に施策の対象者は異なり、必要とする支援も異なることから、結婚出産から定住までの切れ目のない支援により、効果的な施策展開を目指します

【具体的な施策・事業】 ※ () の中は施策の一部です

- 1 多世代交流の推進 (歩くまちづくり) 2 広域化による機能維持・増進 (都市間交流による産業連携) 3 駅周辺の賑わいづくり (駅周辺再整備事業) 4 公共施設マネジメント (住宅地等供給促進) 5 PFI・PPPの推進 (PFI・PPPの推進事業) 6 暮らしの情報共有・充実 (行政マップICT化推進事業) 7 住宅政策の推進 (住み替え促進事業) 8 健康・長寿の推進 (高齢者の居場所事業の充実) 9 防災環境の充実 (住宅用の火災警報器普及・更新) 10 地域資源活用観光振興 (花のまちづくりプラン推進) 11 地域産業活性化 (ふるさと納税推進) 12 産業連関表を活用した地域経済活性化 (産業連関表活用事業) 13 地域エネルギー有効活用 (環境配慮型住宅の推進) 14 就労促進 (若年者就職応援セミナー) 15 中小企業支援事業・起業家支援 (市内外起業家支援事業) 16 移住定住促進 (転入者を介したPR事業) 17 高等教育機関等と連携した若者定着と知の拠点づくり (大学生・専門学校生・高校生・中学生地元定着促進事業) 18 少子化対策推進事業 (育児休暇取得促進事業) 19 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 (婚活事業) 20 教育環境の充実、学力向上 (土曜授業等)



市は、「恵庭市人口ビジョン」「恵庭市総合戦略」の策定にあたり、平成27年6月、恵庭創生懇談会を立ち上げました。恵庭創生懇談会には、産業界・行政機関・学校・金融機関・労働団体・報道機関、いわゆる「産官学金労言」に関わる11人の方々に参加いただき、今後の恵庭のまちづくりについて3回にわたり議論いただきました。委員の1人である切明さんにお話を伺います。



第2回恵庭創生懇談会
(平成27年7月23日)

Interview

恵庭の価値を創造していく

人口減少という危機をチャンスに



学校法人産業技術学園
北海道ハイテクノロジー専門学校
北海道メディカル・スポーツ専門学校
北海道エコ・動物自然専門学校
事務局長

恵庭創生懇談会委員

きりあき たけし
切明 毅 さん

仕事として専門学校の運営に携わっている立場上、人口の変動は常に意識しています。18歳人口が減ると、当然入学する学生も減少しますからね。そのため、私は以前から、人口減少はもはや避けることはできないという認識を持ち、いかに学校を存続させていくか、を考えてきました。

今回、恵庭創生懇談会に参加して、私たち高等教育機関や民間企業同様、市も市民も同じ課題を抱えていることを知りました。つまり、「人口減少」という問題を受け入れたうえで、恵庭のまちの将来を考えていく必要があるということ。私は、人口減少問題について考えることは、一つのチャンスだと思っています。これをきっかけに、新たな恵庭の価値を創造していくことができる。もっともっと恵庭を魅力的に、市民の皆さんが生き生きと暮らせる、まちづくりのチャンスだと思います。そのためには、私たち高等教育機関や民間企業に出来ること、市役所に出来ること、市民の皆さんに出来ることを意識して、つながることが大切だと思います。市民の皆さんが、このまちに対して普段感じている思いを声にして、それを民間企業や市役所が聞いて、まちづくりにつなげる機会があるといいですね。

恵庭創生懇談会への参加後、早速学校の教育システム・プログラムを見直し、「産学官協同教育」を教育の柱としました。卒業生には、学生時代にお世話になった恵庭で地域貢献してほしい、地域課題を解決する力となってほしい、と考えています。

総合計画 × 総合戦略
シンポジウムを開催します

企画・広報課主査 中山 真



北海道大学特任教授の小磯修二さんをモデレーター（議長）に、市の総合計画・総合戦略の策定に関わった方をパネリストにお迎えして開催します。市民の皆さんの参加をお待ちしています！

2月8日(月) 19時～

会場▶ 市民会館中ホール

参加料▶ 無料

その他▶ 事前申し込み不要

※託児希望者は問い合わせください

皆さんにとって「住みやすいまち」はどんなまちですか？

市は、人口減少という問題と向き合い、「恵庭市人口ビジョン」「恵庭市総合戦略」を策定して、今後のまちの目指すべき方向性を示しました。ただ、私たちはこれまで人口減少を経験したことがありません。人口減少を見据えた前例のないまちづくりには、人がつながり、まち全体で取り組むことが必要です。そのためのステップとして、市は総合計画と総合戦略に関するシンポジウムを開催します。もっと「住みやすいまち」、そして「住み続けたいまち」の実現に向けて、市役所・民間企業・市民がそれぞれ出来ることは何か。一緒に考え、実行していきませんか。